



3 巡目 四国あるき 遍路の旅

第6回

山



町



海

平成31年3月1日～3日
臨濟宗妙心寺派 圓福寺

2日目の「大岐の浜」にて



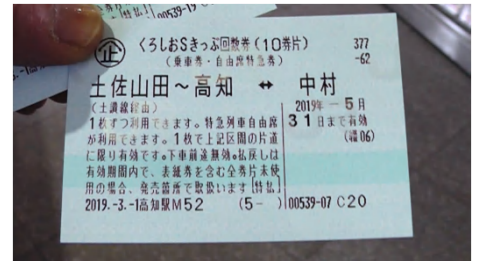
例年なら2月24日あたりの金・土・日が四国あるき遍路となりますが、その日が伽藍再建落慶法要だったので、3月に入ってからの歩き遍路となりました。少しは暖かいかもという予想に反して、飛行機から見た富士山はまだまだ雪化粧。

文部省唱歌「富士の山」の作者もこんな景色を見たのでしょうか。それにしても、見事に、雲の上に頭を出した富士さんでした。

伊豆田へんろ道へ

第5回で、窪川の37番岩本寺も終えているので、高知空港からまずは中村まで移動です。おあつらえ向きに、高知と中村往復の回数券【右の写真】があったので、大分予算を抑えることができました。

中村駅から一息に足摺岬まで行ってもいいようなものを、津倉渚でバスを降りて、伊豆田道という古い遍路道を歩くことにしました。古い道もさることながら、真念庵をお参りしたかったのです。四国札所に八十八の番号を振って、現在の八十八か所の札所を確立した真念さんへ、三巡目にしてようやくのお礼参りです。まあ、落慶法要の支度などで運動不足の身には、軽く足慣らしといったところでしょうか。



前回同様、この歩行記録は、田中さんの携帯で計測したものです。

(C)Yahoo Japan,(C)ZENRIN
500 m

Title : 伊豆田へんろ道

Date : 2019/03/01



国道から、この先行き止まりと案内のある旧道に入っても、しばらくは舗装道路が続きます。車が来ないのはありがたいのですが、こんな舗装道路を歩いて真念庵に着くのなら、わざわざバスを途中下車してまで歩く所じゃなかったかな、なんて思いが頭をかすめたころ、ようやく古い遍路道への道しるべが見えてきました。

峠までの距離はさほどではありませんでしたが、下りは本格的な山中のへんろ道。たかだか標高260mほどの下りと侮ることなかれ！遍路道をふさぐように木が倒れ、それをまたいだりくぐったりの連続でした。

遍路道は、どなたかが倒木を伐採して片づけたりという目に触れないお接待をしてくれているのですが、この道はあまりお遍路さんが歩かないルートになってしまったのか、または西日本豪雨の被害の後で道普請がまだ手付かずなのか、と思いつつ歩かせてもらいました。



罪滅ぼしの庵か？

窪川の37番岩本寺から、足摺の38番金剛福寺までの距離は80km以上あり、札所間の距離が一番長いと言われます。その間に位置するのが、真念法師が開いた真念庵です。

前述の通り、真念法師は、それまでの弘法大師ゆかりの札所がばらばらに四国各地に点在していたものに番号を振り分けて八十八か所にして、巡拝する経路をまとめたのでした。そして、貞享4年(1687)に「四国遍路道指南」という四国遍路のガイドブックまで作成いたしました。

20回以上の歩き遍路をしたうえで、やはり37番から38番への距離が長く難儀をしたので、その途中に庵を構えて、あとに続く遍路たちの助けとしたのだと思います。あるいは、自らの番号のつけ方のせいで、この札所間を長い距離にしてしまったという、罪滅ぼしの意味もあるのかもしれませんが。

以前は遍路が自由に泊まれたと言いますが、鍵がかけられていました。



真念庵への石段の参道



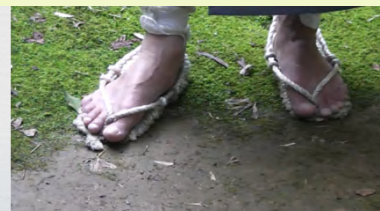
朽ち果てる寸前の真念庵



真念するべ石

真念法師は、遍路の指南書を表すとともに、「真念するべ石」という道標も建てました。現在の道しるべは、木の枝に下げられた札だったり、電柱や塀に張られたシールだったりしますが、真念法師の建てられたものは、その名の通り石でできており、現在でも所々で見ることができます。この先見られる主だったものを右にまとめてみました。

- 54番延命寺境内
- 58番仙遊寺境内
- 58-59番 遍路道沿い
(今治市国分6丁目)
- 64-65番 遍路道沿い
(四国中央市中曾根墓地内)
- 66-67番 遍路道沿い
(観音寺市栗井町 土仏観音前)
- 67番大興寺庫裡前
- 67-68番 遍路道沿い
(観音寺市市原町金神社三叉路)
- 67-68番 遍路道沿い
(観音寺市出柞町出柞バス停)
- 67-68番 少し外れる
(観音寺市八幡町琴弾八幡参道)
- 72番曼荼羅寺境内
- 86番志度寺境内



Title : 大岐の浜へ

Date : 2019/03/01

恒例のバスぼなし

真念庵で少しのんびりしてしまいました。時計を見ると、予定のバス時刻まで10分を切っているではありませんか。国道まで果たして10分で行けるかどうか不安でしたが、なんとかバス出発時刻の1分前ぐらいに国道にたどり着きました。しかし、あわてて国道まで行ったものの、バス停がわかりません。右か左か、文字通り右往左往していると、中村行きのバスが来たので、手を挙げると泊まってくれました。足摺行きバス停の場所を尋ねると、すぐそこですよ、間もなく来ますよと親切に教えてくれました。

無事かどうか、予定の市野瀬バス停に着いたのは出発時刻の2分後ぐらいでしたか。幸いバスが遅れていたもので、なんとかバスに乗ることができたのでした。またまた、ヒヤリ路線バスの旅だったわけです。



民宿「大岐の浜」

第6回の目玉は、足摺東岸の古い遍路道を38番金剛福寺まで歩くコースです。そのために、足摺の手前の宿を探したところ、民宿「大岐の浜」がヒットしました。

ヤシ並木越しに海を眺められる宿は、大岐海岸でサーフィンをする人の宿かと思ったら、れっきとした遍路宿。合宿免許の教習所を転用したので、男性は全員個室。人のいびきを気にせず、2日目に備えてぐっすり休むことができました。

チェックイン時の「ゆず水」美味！



【上】 民宿前のヤシ？

【左】 民宿らしからぬ建物は、合宿免許の宿泊棟だったようです。

【右】 中央の大皿は、宿の前で焼いた、藁焼きのカツオのたたきです。また、ビールが進んでしまいます。



Title : 大岐の浜を歩く

Date : 2019/03/02



大岐海岸

宿の前から遍路道に入り、まもなく左手に大岐海岸の海岸線が、足摺の半島の付け根まで続いています。



純な砂浜

2巡目では眺めただけでその先の以布利から歩きましたが、今回は大岐海岸をあることができました。国道から下りて、簡素な木の橋を渡ると、以布利まで砂浜が続きます。砂浜といえども、砂が締まっているところがあるというのがこれまでの経験でしたが、この浜はどこを歩いてもふかふかでした。以布利まで約1.6km、足をとられながら額には汗でした。おそらく、自然環境がいいので、砂浜が締まるような不純物がないのだろうと、素人考えをした大岐海岸でした。

苦あれば楽あり

以布利の手前、下港山の国道に出ると、バス停前に露店が出ていました。ポンカン・文旦などを売っています。すぐに店主と思しき方が、ポンカンを抱えてきてお接待とのこと。汗をかいて砂浜を歩いてきた身には、のどを潤す甘露でした。

お接待

土曜日とはいえ、まだ観光客が出て来るには早い、3月初旬。お店を広げても、そんなに売れないだろうと心配になりましたが、ポンカン・文旦などが実ったら道端で売るのが、毎年の恒例なのでしょう。

お接待のご利益があって、今年はたくさん売れますように願うばかりです。





金剛福寺に向かう足摺の東海岸は、以前より道路整備が進んだとはいえ、途中には乗用車一台がやっと通れるような箇所もあり、裏街道と言った方がいいかもしれません。とはいえ、歩き遍路たちにとっては、遍路道が整備されていて、東海岸こそメインのルートなのです。

地図でみたら海岸沿いに思えますが、海岸線はそそり立つ岩場なので道はなく、遍路道は断崖絶壁の上の山中のアップダウンとなります。しかも、足摺は水が豊かなので、谷底に下りると溪流がながれ、丸太橋を渡ると厳しい登りとなるのです。丸太橋はどこも腐りかけており、結局は川床の石を飛び跳ねて渡るしかありませんでした。

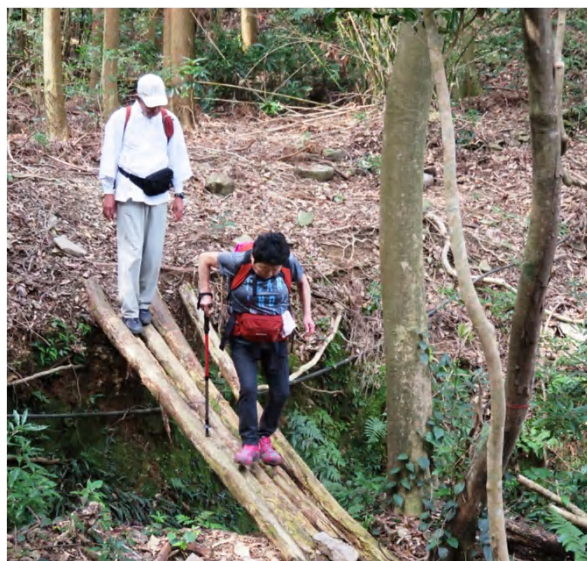
途中、地図に載っていない遍路道もあり、自動車道路だけでなく、遍路道も整備が進められ、古い道を復元したりしているのだと実感することができました。



同行二人

足摺に向かう遍路道で、遅れがちな尚美さんと同行二人になったのは、いつもながらに雨海さんでした。

遍路を知っている人なら、雨海さんの白装束を見てお遍路さんだとわかりますが、そうでなかったら登山の途中の写真のようです。



Title : 津呂のへんろ小屋から岬へ Date : 2019/03/02

津呂のへんろ小屋 東海岸の真ん中あたりに、無料で宿泊もできるへんろ小屋があります。管理人は、民宿「大岐の浜」にいた人で、実は、連載漫画を執筆していた方だそうです。小屋を拝借して、民宿のお接待でいただいたおにぎりをいただきました。



足摺にたどり着く 大岐の浜から約25km。まだ宿坊に入るのは早いので、足摺をちょっと散策することができました。右は、足摺岬を背景にパチリですが、田中さんがゆっくり歩いたので、後姿になってしまいました。



(C)Yahoo Japan,(C)ZENRIN
200 m



点数:2851 距離:26.8km 全体平均斜度:0.2% 最大標高差:127m

覚悟の3日目

天気予報は雨100%。最初から雨具を覚悟していたのに、霧雨が少し降っただけで、雨にも濡れずに歩くことができました。きっと、昨日真念庵にお参りした功德で、真念さんが雨を降らせなかったのでしょう。助かりました。



【上】雨予報の中、真念へんろ道の地蔵峠に向かう。【左】真念へんろ道の39番延光寺への道しるべ。【右】真念へんろ道を下って、麓の道を歩く。【下】自家焙煎のコーヒー専門店「かうひい亭」【一番下】帰路についた有岡駅。反対車線の車体のひよこみたひなのは、宿毛の「だるま夕日」です。



覚悟の下り

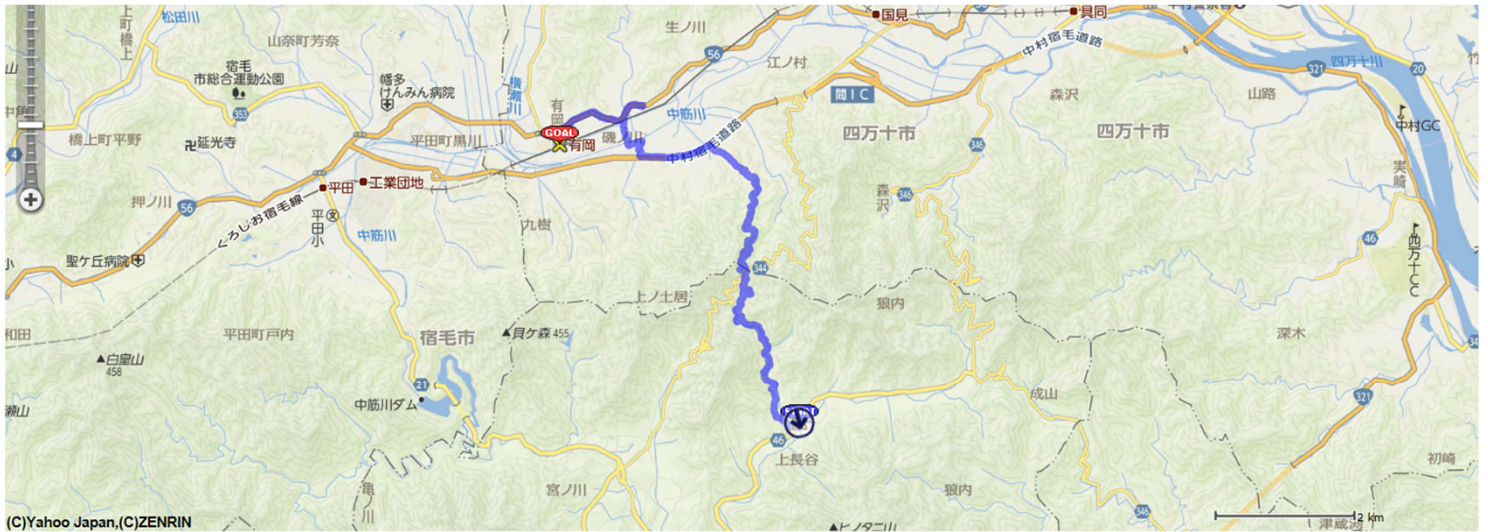
足摺で出発の時には強風が吹いていたので、山中の下りのへんろ道は大変だろう、しかも雨でも降っていたらと、こちらでも覚悟しておりましたが、足摺から離れた内陸部は風もなく、地蔵峠からの下りのへんろ道も拍子抜けするぐらいに快適な道でした。

あとは有岡の駅まで行って帰路に着けばいいのですが、そろそろ昼ごはんの時間です。駅前なら何かあるというのは四国ではあてにならない苦い経験から、スマホで探すと国道に出て少し戻ったところに喫茶店があるだけでした。それでも店があれば御の字です。温かいコーヒーでも飲んで空腹をまぎらわそうかと思ったら、なんと自家焙煎のコーヒー専門店。まだモーニングサービスもあるし、ランチもあるし、歩き遍路ではありえないような昼食を食べて、無事歩き終えました。



Title : 真念へんろ道を行く

Date : 2019/03/03



(C)Yahoo Japan,(C)ZENRIN
500 m



点数:1324 距離:13.3km 全体平均斜度:-1.1% 最大標高差:260m

無事歩き終えて、帰路の車中で安堵の表情。



6回目を無事歩き終えても、まだまだ使えそうな草鞋。

住職手作りのわらじです。
4回目でこんな感じになります。
さて、何回目まで使える
でしょうか？

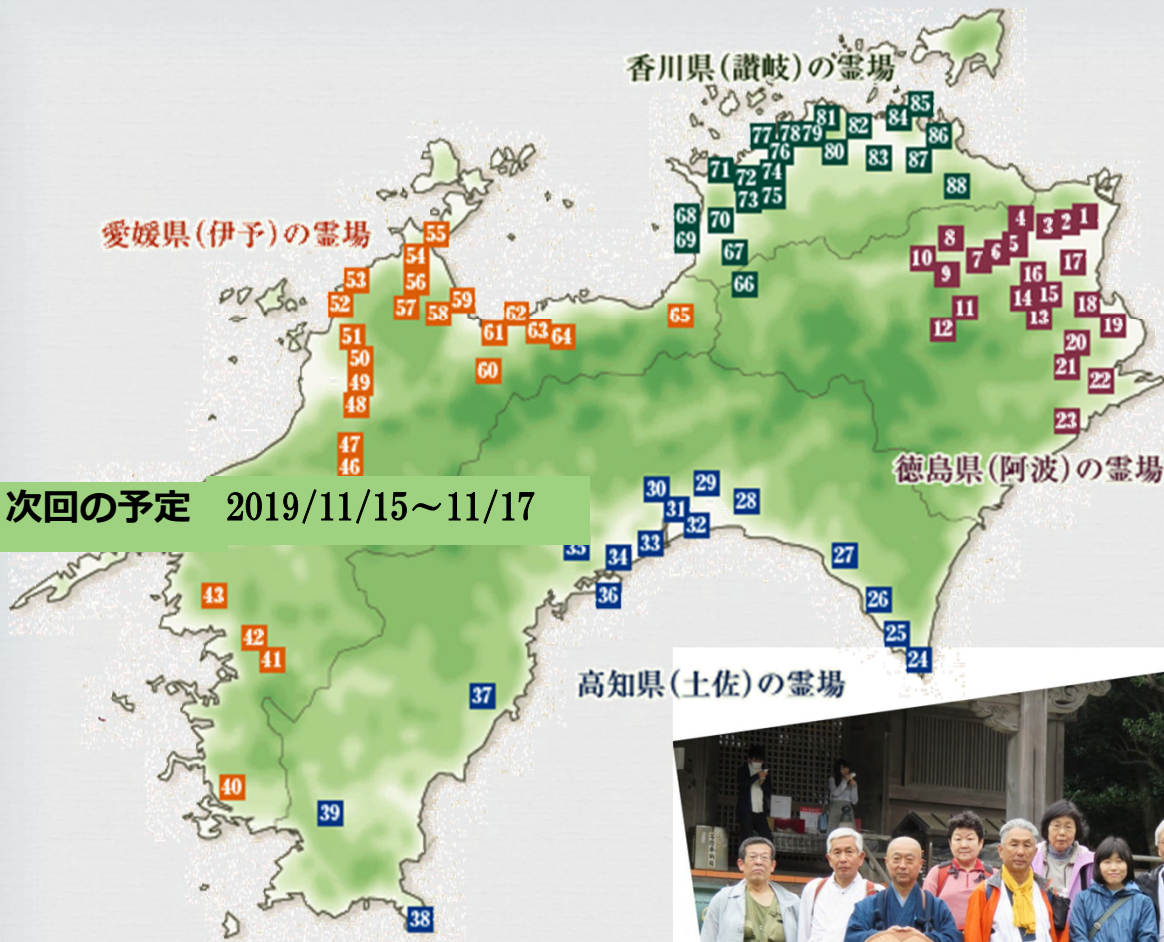


住職のわらじは、5回目で
こんな感じになります。4回
目を終えたときのわらじと比
べてください。



6回目でこんな感じになり
ます。黒くなったのは、濡れ
た道を歩いたからです。まだ、
持ちそうな感じがします。





あとかき

金剛福寺の奥さんいわく、「四国の人、日曜日には働かないんですよ。」というので、3日目、田舎の集落にタクシーを手配するのは無理があるかなと、足摺からタクシーに分乗しようと思ったのは正しい判断でしたが、案の定タクシーの運転手さんが見つかりません。困っている私たちに奥さんが救いの手を差し伸べてくれて、ようやく見つかったタクシー1台とお寺の車で、真念へんろ道の入口まで送っていただくことができました。

観光地足摺でありながら、日曜日の書き入れ時に働かないとはどういうことかといぶかしんでいると、こちら辺でタクシーを使うのは、病院に行くお年寄りぐらいで、そのため病院が休みの日曜日は仕事がないのだそうです。

お寺の目の前のホテル廃墟とともに、高齢社会と観光地の衰退を目の当たりにして、社会勉強にもなった今回の歩き遍路でした。

次回は、伊予の国に入ります。どんな、地域の問題に出くわすでしょうか。

圓福寺 四国あるき遍路の旅 3巡目第5回写真集

写真：田中 脩一さん
西川 浩平さん（ビデオから）
宮田 宗格
文章：宮田 宗格
編集：宮田 宗格